

平成28年4月7日

上ノ国町議会議長

石澤 一 明 様

氏 名 市 山 昭 義



平成27年度政務活動費に係る収支報告について

上ノ国町議会政務活動費の交付に関する条例第8条第1項に基づき、別紙のとおり平成27年度政務活動費収支報告書を提出します。

政務活動報告書

1 政務活動名

増養殖漁業と六次産業化に関する調査研究

2 政務活動内容

(1) 平成27年10月23日

下松市栽培漁業センター

山口県下松市大字笠戸島字細折456-3

(2) 10月24日

萩大島船団丸

山口県萩市樽屋町22-3

3 政務活動成果

(1) 山口県下松市の下松市栽培漁業センターを視察

10月23日午前9時30分から12時まで久山所長ほか2名の職員が出席されて、下松市の栽培漁業センターの経緯や現況、県や市の漁業の課題と現状などについて研修し、意見交換などをしました。当センターは昭和58年に開設されています。現在はマコガレイ、クルマエビ、カサゴ、オニオコゼ、アワビ、キジハタ、ガザミ、トラフグ、アカガイ、ヒラメの10魚介類の生産から中間育成、放流を行っています。種苗生産棟以外の施設は、地上に生簀(いけす)を設置し、上屋(うわや)だけの建設費のかからない構造で、アワビの種苗は30ミリまで育成し、倍量を放流することによって施設の稼働率を高めてコストを下げています。また育成された



注) 1 政務活動名には、実施した活動名を記載する。

(例～○○調査研究、○○研修、○○広報・広聴、○○会議など)

2 政務活動内容及び政務活動成果には、具体的な内容とその成果を記載する。



魚介類の90パーセントが下松市で販売されています。施設や管理にかかる少ない費用で多くの魚介の生産、育成、放流ができるよう工夫されています。

(2) 山口県萩市 萩大島船団丸の六次産業化の実体験及び視察

10月24日、漁船で10キロほど離れた大島に移動、萩大島船団丸の長岡船主らから講義を受け研修意見交換しました。時間の関係で、船上での加工体験はできませんでしたが、昼食をとりながら若い漁業者たちと交流して、漁業の苦労や課題などの話し合いをしました。年々漁獲量が減り、漁業をやめていく若者が多くなっていく中で、いかに収入を確保していくかが課題となっていました。おりしもその時に萩市の沖合にある小島（人口700人）で20代の女性が代表となり、3艘（そう）の船団の漁業者が六次産業化に取り組み始めたそうです。漁獲した魚を船上で加工、梱包（こんぼう）し、港に入ると市場を通さず料理店に直送しており、手段はスマートフォンを駆使しての全国の料理店150社の取引リストだそうです。年々漁獲量が減り、いかに収入を増やすかを考えた結果の方策とのことでした。



成果

(1) 下松市栽培漁業センターは、水産資源を守り育てていくために、10の魚種の放流をしており、海域によって漁獲量の差ができるのでローテーションを組んで、収入が公平になるようにしているそうです。養殖された魚は90パーセントが下松で消費されており、地産地消に貢献しています。また、市

注) 1 政務活動名には、実施した活動名を記載する。

(例～〇〇調査研究、〇〇研修、〇〇広報・広聴、〇〇会議など)

2 政務活動内容及び政務活動成果には、具体的な内容とその成果を記載する。

別紙2

民へセンターに親しんでもらうため、料理教室や放流、漁獲体験などの活動も行っています。ヒラメは、笠戸ヒラメのブランドで市場においても評価が高いとのこと。本町においても、栽培漁業センターの一層の活用が望まれます。

- (2) 萩大島船団丸は、年々漁獲量が減っていく中で、生活を維持していくためにどうしたら良いかを考えていた矢先、鮮度の良い魚介を料理店へ直送することで、漁業者の経営安定に寄与することになったそうです。新規に就業する若者も出てきており、漁業に誇りをもって就業しており、頼もしく感じました。しかし、地域においては、今までと違う感覚で漁業をする事に違和感をもつ漁業者も多く、精神的な苦勞もあります。漁業協同組合においてもかなり理解は進んでいるものの、まだまだ足りないとのこと。

本町漁業においても漁獲量が減少し、魚価も不安定なことから漁家経営が不安定であるので、特にヒラメの豊漁の時の販売方法を検討してはどうかと思われま。

注) 1 政務活動名には、実施した活動名を記載する。

(例～○○調査研究、○○研修、○○広報・広聴、○○会議など)

- 2 政務活動内容及び政務活動成果には、具体的な内容とその成果を記載する。